

# “線路は続くよどこまでも” 衛生管理の推進にも終わりはない

清田軌道工業株式会社 総務部 改善担当課長 二井見 晃さん



清田軌道工業株式会社は、大阪市北区梅田に本社を置き、各地の民営鉄道をはじめ公営鉄道、JR各社の軌道工事（新設・改良・保守）の施工や清田式踏切の製造、販売、施工を行っている。卑近な言い方をすれば、鉄道の“線路屋さん”だ。今回、登場を頂いた二井見晃さんは、総務部に籍を置き、改善担当課長の職にある。協力会社を含めた安全衛生協議会の事務局スタッフとして、安全衛生全般の統括にも当たる。衛生管理者の資格を取得してから、10年近くが経とうとしている。ベテランである。

## 夜間工事が多い特殊性

二井見さんは、軌道工事の特殊性から説明してくれる。軌道工事は屋外作業が中心で、日々作業場所が変わる移動型・広範囲型である。例えば、市街地、トンネル、山の中など現場はいろいろだ。それに、夜間作業が多い。昼間の軌道整備作業では、列車運行の合間をぬって、列車監視員を配置しながら作業を実施する危険な業務が多いことだ。「屋外作業が中心ですから、夏は暑く、冬は寒いといった厳しい環境下での作業になります。特に夏は、熱中症は要注意です。夜間でも熱中症にはなりますから、水分等の補給、こまめな休憩や点呼時などにおける健康状態確認等について、監督者、協力会社の関係者には徹底しています」と話す。昨年のも暑が続いた時期は、心配で仕方がなかったという。今年は節電対策も加わり、熱中症対策には目が離せないようだ。

営業職から現在の職に移って、「公的な文書も含めて、文書内容が現場にマッチしていないケースが多いように感じました。衛生管理者の立場として、どのように現場に伝えるかを、自分の中で咀嚼(そしゃ

く)してからわかりやすく伝えるようにしています」と衛生管理者としての気配りの一端を披露してくれた。

また、夜間作業が多いことから、「明けの日は、きちんと休養することを機会があるごとに説明しています。もちろん年2回の特殊健康診断の受診率は100%です。作業所にはデジタル血圧測定器を設置しまして、日常的な健康チェックを実施してもらうようにしています。作業はチームで移動しながらになりますので、休みづらい面がありますので、体調管理が大切になってきます。ささいなことかもしれませんが、個々人が自主的に健康管理に留意できるような環境は整えていきたいと思っています」とも語る。また、熱中症携帯キットの中には、緊急時のための備えとして、作業場所周辺の医療機関の連絡先等がわかるように配慮している点も衛生管理者としての面目躍如といえるか。

## 先取りで労働衛生の充実を

今後については、定期健康診断後の保健指導の推進を図るといふ。また、年次有給休暇の取得促進も健康面では重要なことであり、推し進めていく考えだ。さらに、現在はメンタルヘルス対策の一環として開設している相談室を拡充するとともに、コミュニケーションを広げる機会を多くする方策を検討しているのだという。二井見さんは、消防署が募集した「AED講習会」にも参加するなど、積極的だ。前任者から衛生管理者にといわれたときには「何ですか？」状態であったというが、月日が経ち、今や同社の社員や協力会社の従業員の健康の保持・増進を全面的に担っている。